

# 安全データシート

## 【水系塗料用】

### 1. 製品および会社情報

製品名	マシュー
整理番号	0003115
会社名	アールジェイ株式会社
住所	〒732-0055 広島市東区東蟹屋町6-5
担当部門	技術部
担当者	川村聡
電話番号	082-261-9411
FAX番号	082-264-0605
緊急電話番号	082-261-9411
製品の種類	水性ウレタン塗料
主な用途	木材

### 2. 危険有害性の要約

#### 【GHS分類】

引火性液体	: 区分外
急性毒性経口	: 区分外
急性毒性経皮	: 区分外
急性毒性吸入（ガス）	: 分類対象外
急性毒性吸入（蒸気）	: 区分外
急性毒性吸入（粉塵、ミスト）	: 区分外
皮膚刺激／腐食性	: 区分外
眼損傷性／刺激性	: 区分外
呼吸器感受性	: 区分外
皮膚感受性	: 区分外
生殖細胞変異原性	: 区分外
発がん性	: 区分外
生殖毒性	: 区分外
特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）	: 区分外
特定標的臓器／全身毒性（反復暴露）	: 区分外
吸引性呼吸器有害性	: 区分外
水生環境有害性（急性）	: 区分外
水生環境有害性（慢性）	: 区分外

※注意喚起語は、「危険」がある場合は「危険」を、「危険」がなく「警告」がある場合は「警告」を表示します。

※特定標的臓器／全身毒性（単回暴露）、（反復暴露）の詳細は、「11. 有害性情報」の個々の物質データをご参照ください。

#### 【GHSラベル要素】

該当なし

#### 【注意書き】

安全対策	使用前に注意書きをよく理解して取り扱うこと。 飲食または喫煙をしながらこの製品を使用しないこと。 必要に応じて個人用保護具（保護手袋および保護眼鏡・保護マスク等）を着用すること。 取り扱い後はよく手洗いうがいをする。
救急処置	火災の場合には、消火に炭酸ガス・泡。粉末消火器を使用すること。 眼に入った場合は直ちに水で注意深く洗い、医師の診断・手当を受けること。 皮膚又は衣服に付着した場合は直ちに大量の水と石鹼等で洗い、汚染された衣服は新しいものに取り替えること。 気分が悪くなったり皮膚刺激等異常を生じた場合、医師の診断・手当を受けること。 ばく露又はばく露の懸念がある場合は、医師の診断・手当を受けること。
保管	換気の良い冷所で保管すること。
廃棄	残塗料・廃液および容器は河川や下水道に捨てず、市町村の規則に従って廃棄すること。

※注意書きは水系塗料共通のちゅういがきを記載しています。

## 3. 組成および成分情報

単一製品・混合物の区別	混合物
化学名または一般名	アクリルウレタンエマルジョン樹脂塗料

## 4. 応急措置

飲み込んだ場合	無理に吐かせずに、安静にして、直ちに医師の診断を受けること。 嘔吐物は飲み込ませないこと。
皮膚に付着した場合	付着物を布で素早く拭き取り、大量の水及び石鹼または皮膚用の洗剤を用いて十分に洗い落とす。 溶剤、シンナーは使用しないこと。
眼に入った場合	外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断/手当を受けること。 直ちに大量の正常な流水で15分以上洗う。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
吸入した場合	出来るだけ早く医師の診断を受けること。 蒸気ガスを吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、医師の診断を受けること。 必要があれば、医師の診断を受ける。

## 5. 火災時の処置

消火剤	水、粉末、炭酸ガス、泡、乾燥砂等
使ってはならない消火剤	なし
火災時の特定の危険有害性	この物自体は可燃性はないが、水分が蒸発した後の乾燥物は可燃性である。 燃焼すると、一酸化炭素を発生させる可能性がある。
特定の消火方法	消防隊に火災の場所と危険有害性を伝える。 可燃性の物を周囲から素早く取り除く。 呼吸器用保護具と保護手袋を着用する。 消火活動は風上から行う。 指定の消火剤を使用する。
消火を行う者の保護	出来る限り流出物が配水管または水路に入るのを防ぐ。 状況に応じて呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等を着用する。

## 6. 漏出時の処置

人体に対する注意事項	作業の際には保護具（手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。
環境に対する注意事項	流出物が配水管または水路に入るのを防ぐ。 配水管または水路の汚染が生じる場合は関係機関に連絡する。
回収方法	漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。 乾燥砂、土、その他の不燃性材料を用いて流出を阻止し、残留物を吸着させて回収する。 蒸気の拡散を吸収するのに水スプレー噴霧を用いてもよい。 付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処理すること。

## 7. 取り扱いおよび保管上の注意

取り扱い	
技術的対策	労働安全衛生法、消防法等の関連法規に準拠して作業する。 正しい作業実施法を定め、作業環境を許容濃度以下に保ち、換気をよくして、吸入・接触を避ける。 取り扱い後は常に石鹼水で洗浄し、作業着は別々に選択すべきである。
注意事項	強酸化剤との接触を避ける。加熱・酸性・アルカリ性物質により反応を誘発する危険性があり注意すること。 容器は破損・腐食・割れ等のないものを使用し、使用済み容器は一定の保管所に集積する。
安全取り扱い注意事項	水禁忌物質との接触を避ける。
保管	
保管条件	涼しい場所、換気の良い場所で容器を密閉して保管すること。

## 8. 暴露防止および保護措置

設備対策	取り扱い場所の近くに安全シャワー・手洗い・洗顔設備を設け、その位置を明瞭に表示する。 「関係者以外立ち入り禁止」等の必要な標識を見やすい位置に掲示すること。
保護処置	必要に応じて適宜、次の保護具を着用する。 送気マスク・空気呼吸器・酸素呼吸器・有毒ガス用防毒マスク・保護眼鏡・不浸透性の保護手袋・保護長靴・防護服。

保護具は防護点検表により定期的に点検する。  
作業中は、飲食、喫煙しない。飲食、喫煙前は石鹼で手を洗う。  
一度喘息の症状を示した人は、同じ症状を起こすので以後接触しないこと。  
コンタクトレンズは特別な危害をもたらす。ソフトレンズは刺激物を吸収して、それらを濃縮する可能性があるため使用しないことが望ましい。  
有機溶剤又は化学薬品が浸透しない化学用保護手袋着用が望ましい。

## 9. 物理的および化学的性質

外観	乳白色液体
臭気	わずか樹脂臭
pH	7-9
水への溶解性	データなし
沸点	100°C (参考値)
引火点	なし
比重 (密度)	1.05±0.02
蒸気圧	データなし
発火点	データなし
爆発限界	データなし
その他	特になし

## 10. 安定性および反応性

化学的安定性	製品は安定していると思われる。
危険な反応	酸化性物質と反応する。 危険な重合は起こらないと思われる。
避けるべき条件	加熱。忌避物との接触。 危険有害性のある分解生成物。 有機溶剤蒸気など。 熱・光・金属粉や過酸化物の混入。

## 11. 有害性情報

特段の情報を有しない。

## 12. 環境影響情報

残留性/分解性	混合物としてのデータがない。
生物蓄積性	混合物としてのデータがない。
土壌中の移動度	混合物としてのデータがない。

## 13. 廃棄上の注意

一定容器にとりまとめ廃棄物処理免許を持つ処理業者に処理を依頼すること。  
空容器を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後処分すること。  
内容物/容器は国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。

## 14. 輸送上の注意

国内規則	特段の規制はない
国際規則	国連番号 なし
特別の安全対策	国連分類 国連勧告の定義上危険物に該当しない。 車両等によって運搬する場合、荷送人は運送人に運送注意事項やイエローカードを携帯させる。 輸送前に容器が密閉されているか、又は液漏れがないか確認する。 容器の輸送及び運搬は、常にしっかり固定した状態で行き、特にビン又は缶は輸送中に互いに衝突して破損することのないようにあらかじめ適当な緩衝物を詰めておく。

## 15. 適用法令

## 製品名 マシュー

労働安全衛生法	危険物：	該当しない
	有機溶剤中毒予防規則：	該当しない
	鉛中毒予防規則：	該当しない
	特定化学物質等障害予防規則：	該当しない
化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）		該当しない
毒物および劇物取締法		該当しない
消防法		該当しない
船舶安全法		該当しない
悪臭防止法		該当しない
廃棄物の処理及び清掃に関する法律		該当しない

## 16. その他

### 〔主な参考文献〕

独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）公表データ  
社団法人日本塗料工業会 原材料物質データベース  
社団法人日本塗料工業会 GHS 対応 MSDS・ラベル作成ガイドブック（混合物（塗料用））  
社団法人日本塗料工業会 モデル MSDS・モデルラベル事例集（混合物（塗料用））  
中央労働災害防止協会 GHS 対応による混合物（化学物質）の MSDS 作成手法の研修テキスト  
溶剤ポケットブック  
危険防災救急便覧  
国際化学物質安全カード（ICSC）

### 〔注意事項〕

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

新しい知見や安全情報が判明した場合は、予告なく変更する場合があります。

注意事項は通常の取り扱いを対象としたものなので、特殊な取り扱いの場合には用途・用法に適した安全対策を実施の上ご使用ください。

すべての化学製品には未知の危険性・有害性がありうるため、取り扱いには細心の注意が必要です。

ご使用各位において、安全な使用条件を設定くださるようお願い申し上げます。